

## ◆子どもの頃の生活

**市 長**…おかべ先生は、子ども時代はどんなふうに通っていたのですか。

**おかべ**…生まれたのは富岡市ですが、小学生から高校を卒業するまで安中市に住んでいました。今も実家に家族がいます。小さい頃から外で遊ぶよりも、家で絵を描くのが好きでした。また、親が油絵を描いていたのでキャンバスに向かう姿を目にしていましたし、家にはマティスやピカソの画集があり、小さい頃から見ていました。

**市 長**…小さい頃から、絵は身近なものだったのですか。

**おかべ**…そうですね。自然と興味が湧き、中学生の時は美術部に入りました。黙々と一人で絵を描くのが好きでした。だんだん上手に描けるようになり、学校でも褒められてうれしかったです。

**市 長**…では、高校時代も美術部に入ったのですか。

**おかべ**…高校時代は部活には入らず、デッサンなどの基本的なことを教えてくれる絵の教室に通っていました。そこで商品や雑誌・書籍・ポスターなどに使われるイラストを描く「イラストレーター」という仕事があると知り、将来の目標として絵に取り組み始めました。

## ◆進路を選んだ理由

**市 長**…高校卒業後、「桑沢デザイン研究所」というところに進んだそうですね。

**おかべ**…デザイン系の専門学校の中でも歴史があり

著名な人を輩出していて、デザインの現場で活躍されている方が講師をされていたりと、仕事に結びつくカリキュラムが魅力でした。クリエイターになるための必要なスキルやコミュニケーション力について教えてくれました。いろいろな授業がありましたが、その中でも写真の授業は着眼点を学ぶうえで、もの見方や切り取り方は一人一人違うなど発想やセンスを磨くトレーニングになりました。



## ◆なぜイラストレーターに

**市 長**…おもしろさを見出し自分なりに切り取る、独自の視点が大切ということですね。

**おかべ**…将来的には絵の仕事をしたいと思っ

ていましたが、卒業したからといってすぐに絵の仕事がもらえるようになるわけではないです。卒業後は、デザイン会社に入りグラ

フィックデザイナーの仕事をしていました。働きながら出版社やデザイン会社にイラスト作品をもって売り込みに行ったり、求められるイラストや自分の世界観を追求するために、個展を開いたりしていました。そして、30歳の時にイラストレーターとして独立しました。

**市 長**…30歳の節目で勝負に出たわけですね。

**おかべ**…独立してすぐに、複数のイラストレーターが描いたイラストの中から作品を採用する、いわゆる「コンペ」で選ばれた。大きな仕事をやる機会があり、その後は順調に仕事のオフアーがくるようになりました。

## ◆オリジナルの作品

**市 長**…装丁、広告、雑誌、パッケージなど幅広い分野で活躍です。おかべ先生の作品は、ねこをモチーフにしたイラストが多いですね。

**おかべ**…実家にいつもねこがいて身近な存在でした。しなやかなポーズ、神秘的な瞳、ねこを見ていると様々なシーンが思い浮かび、イメージネーションが広がります。自分なりの表現でねこ達をイラストにしたいと描き始め、最初にオリジナルでポストカードをつくりました。

**市 長**…依頼の仕事ではなく、オリジナルで作ることもあるのですか。

**おかべ**…上京した時からあこがれていた青山のお店にそのポストカードを持ち込み、販売してもらえることになりました。そこから広がった仕事があります。

